

わたしも 一筆

地域住民が自分たちで
地区の環境を守る時代



▷富士見小学校の生徒たちと一緒に
花の植栽をするひまわり会の皆さん

わたしの住む木筒地区は、農地・水・環境保全向上活動支援実験事業のモデル地区として、今年度から事業を実施しています。

近年、農村の過疎化、高齢化、混住化などの進行に伴う集落機能の低下により、農地、農業用水、農地の持つ景観や環境の適切な保全管理が困難となってきました。このことを踏まえ、本来多面的機能を持つ農業、農村の力を健全な形で発揮を図るために、効率的・安定的な農業構造の確立とともに、基盤となる農地・水・環境の保全と、農業が有する自然循環機能を維持増進することを目的とした事業であります。

わたしたち（ひまわり会）も地域住民の一人としてこの事業に参加してみ、これからは自分たち



あき ば のり
秋 庭 紀 会長

木筒ボランティアグループ（ひまわり会）

の生活環境は自分たちで守っていかなければならない時代に来ているのかと、自治体任せではやはり限界があるのだらうと思っています。

活動としては、地域内のごみ拾い、雑木・雑草の処理、生活排水の泥・ごみ上げ、地域内の花の植栽などを行いました。当地区はまだ下水道の整備がされていないため、生活排水は農業排水路に垂れ流しされています。雑排水が流れ込んだ水路はへどろ化し、ごみの入ったスパーやコンビニの袋、空き缶など、その数の多いことに驚きます。こういったごみは誰かが故意に捨てなければ無いです。今までは、水路の管理や農地近くの雑木や雑草の処理は農業者が行ってきたものです。今は

その農業者の高齢化や人数の減少により管理ができなくなっています。自分の生活環境を守るためには、見て見ぬ振りではなくなっています。

花の植栽は地域の景観向上活動として行いました。当地区はもとも岩木川の堤防に花の植栽は行っていました。この事業により地域内を横断する県道沿いにも植栽することができました。身近に花があることで心が和みます。道路を通る人たちも良い気分です。通っていることと自負しております。そしてなにより良かったのは、富士見小学校との交流でした。植栽した花の管理を一緒に行ったので、誰がどの子供なのか多少なりにも分かったからです。昔は村の子どものことはみんな知っ

木筒地区住民の有志が集まり、地域環境向上のために活動するボランティアグループ「ひまわり会」。その活動内容と活動を通して感じていることを秋庭会長さんから紹介してもらいます。

ていましたが、近年は近所の子どもですらよく知らない状態です。地域ぐるみでの作業があることによつて、大人と子どもとの交流がもっともってきたらどんなに良いことでしょうか。

今は国の事業で行っているため交付金で必要経費がまかなえますが、今後国の事業でなくなつたときに、やっていけるのか不安です。自分の子どもや孫のために続けていかなければならないという必要性を感じているからです。

皆さんも近所を一度散策してみませんか。新しい発見があり、守らなければならないものが、見えてくるかも知れません。一人一人のちよつとした気遣いとちよつとの手助けが自分たちの環境を守るのではないかと思います。